

【SSJDA における社会調査データアーカイブ整備の取り組み】

【胡中 孟徳】（所属：東京大学社会科学研究所 附属社会調査データアーカイブ研究センター）

【発表内容】

東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター（CSRDA）では、社会科学分野の分野別リポジトリである Social Science Japan データアーカイブ（SSJDA）を 1998 年 4 月から運用してきた。主な業務として、社会調査の個票データを収集・保管し、メタデータを作成したうえで、学術目的での二次的な分析のために学内外の教員、大学院生等に提供を行ってきた。2021 年 3 月現在、1400 件を超える社会調査の個票データの提供を行っている。この間、CSRDA では、二次分析の成果を把握して優秀論文への表彰、国内の若手研究者や大学院生へ向けた共同研究プロジェクト「二次分析研究会」、及び若手研究者・学生向けの「計量分析セミナー」などを通じて収録データの利活用を促進してきた。また、2018 年 10 月より、日本学術振興会「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築プログラム」の拠点機関として認定されるなど、リポジトリとしての拡充を企図している。具体的には、セルフアーカイブ機能の開発、社会調査メタデータの国際標準である DDI（Data Documentation Initiative）への対応、DOI の取得、Core Trust Seal の導入に向けての準備、実証的な社会科学研究を行う海外の若手研究者の招聘や、国内の研究者も参加するセミナーの開催等を通じて、社会調査データの二次的利用の拡大や研究成果の国際的発信、さらに国際的ネットワークの強化などを行っている。本報告では、CSRDA と SSJDA のこれまでの取り組み・現在の取り組みを紹介しつつ、今後の課題について報告する。